

第6学年 寒江っ子学習学習指導案

富山市立寒江小学校 笹原克彦

1 単元名 World Wide な Wa たしたちになろうプロジェクト - 難民の食と暮らしを考える -

2 単元について

(1) 児童の実態

1学期に、「食べたことのない世界の味を味わおう」をテーマに総合的な学習の時間に取り組んできた子供たちは、初めての口にする味や食材から見つけた課題を基に、追究を続けてきた。使われている食材の効能や、地域の産物・気候との結びつきなど、単にメニューの中身を調べるだけでなく、生活との結びつきという視点で調べることはできるようになっている。課題の解決にあたっては、図書室の書籍やインターネット上の資料など、目的に応じてさまざまな手段を活用してきた。しかし、一つの資料を見つけると安心してそれ以上探そうとしなかったり、手詰まりになっても別の方法をとりようと切り替えて考えたりすることができない子供も存在する。一方で、電話で取材を行ったり、手紙を送って資料を手に入れようと試みたりと調べ方を多様に工夫する子供の姿も見られるようになってきた。調べたことを基に、世界各国で食べられている特徴のある食べ物やそこで使われている食材は、その国の気候・風土・産業といった点で人々の暮らしと密接に結びついていることを見つけていった。話し合い活動では、友達の調べたことを自分の調べたことと結びつけてとらえ、自分たちの暮らしとの相違点や共通点に気づく子供の姿も見られるようになってきている。

(2) 研究主題とのかかわり

【高めたい子供の力】

この単元で期待する子供の伸ばしたい主な力は、以下の通りである。

目的に応じて適切な方法・手段を選択しながら情報法を収集する力

自分や友達の調べたことを、相互に関連づけながら、考えを見つける力。

見つけたことや自分の考えを友達に伝えるために、適切に書いてまとめたり話したりできる力。

友達が調べたことを読んだり話を聞いたりしたことから、自分の考えを見直し、つなげて発言できる力。

【学習の内容について】

1学期の学習では、子供たちは、世界の食文化の多様さ、豊かさを知る過程を通して、世界の人々には様々な暮らしがあることや、自分たちの生活との相違点・共通点を学ぶことができた。しかし、「食」という視点で世界を眺めると、貧困や戦争といった社会的状況や干ばつなど自然環境によって、明日食べるものを手に入れない心配を抱えたくらしをしている人々が存在する。そこで、実際に、そういう暮らしをしている難民キャンプでの典型的な食事を体験し、そこから感じた疑問を基に追究していくことによって、世界中には自分たちとは全く違った暮らしがあることを理解し、そういう人々

氏名	ア 課題設定の能力		イ 問題解決の能力	
		・ 難民の人々の食物を食べる体験から疑問を見つけることができたか	・ 疑問を解決する過程で自分の課題を見つけることができたか	・ 目的や意図にあってるか方法が確かめながら資料を収集しているか

に対して自分はどういうふうに関心を持てるかについて、考えを深めていくことができると考える。

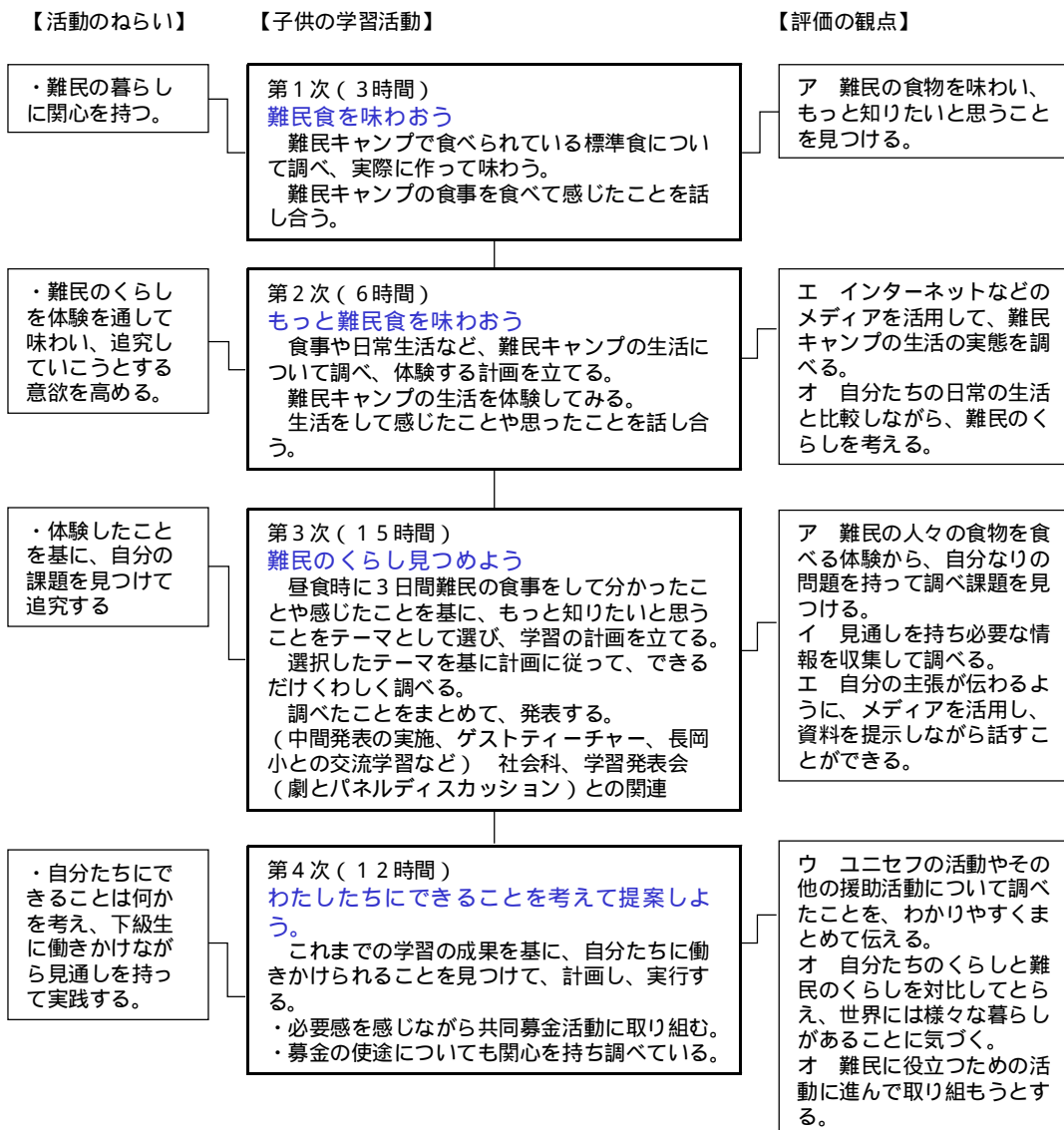
【教師の支援について】

単に1度難民の食事を体験した程度では、イベント的で楽しむだけに終わってしまうことが予想される。そこで難民の食事を複数回体験することによって、難民の食とくらしに対する疑問を自分の課題へと高めることができると考える。また、学習の過程では、各自がそれぞれに適切な方法を選択して調べ学習を進めるが、子供の意識の高まりに応じて、海外協力の経験のあるゲストティーチャーを招き、実際に支援活動に携わった人の生の声を聞くことによって、自分たちの調べ学習が寄り現実的なものとなるよう支援していきたい。

【評価について】

子供一人一人が、どのような意識を持ちどのように学習を進めているかを評価するために、単元全体を見通した評価カードを活用する。単元全体の評価基準をあらかじめ洗い出して一覧にすると同時に、各時間毎に中心となる評価項目をして、一人一人のあゆみをできる限り把握できるように努めたい。

4 全体計画（全34時間） World Wide な Wa たしたちになるうプロジェクト



5 本時の学習（第3次 4/15）

(1) ねらい

- ・ 昼食時に3日間難民の食事をして分かったことや感じたことから各自が抱いた課題を基に、適切な手段を選択して情報を収集・判断・処理することができる。(イ)

(2) 展開

前時の学習	自分の課題を基に、難民の暮らしについて調べる。
主な学習活動と教師の支援・指導()	

難民の暮らしについてもっと知りたいことを調べよう

・ どうしてこういう食事で暮らさなければならないのだろう。

- ・ 貧しくて買えないのかな
- ・ 砂漠が多くて作物が育たないのかな
- ・ 何から逃げているのかな
- ・ 戦争で逃げてばかりいるからかな

・ 食事以外の生活はどうなっているのだろう

- ・ テント生活をしなければならないようだ。
- ・ 難民食さえも十分に行き渡らないこともあるらしい

・ 難民になっているのはどういう人なのだろう

- ・ 何も持たずに逃げている人もいるな。
- ・ 子供もたくさんいるんだな。
- ・ 生活する場所を奪われてしまったんだな。

・ どの国の人がこんな暮らしをしているのだろう

- ・ 難民がたくさんいる国はアフリカに多いのはどうしてかな。
- ・ ヨーロッパにも難民がいるのはどうしてだろう。

自分の課題に対して、それを解決するために、書籍やインターネット、手紙、電話取材など方法を工夫するよう促し、多様な方法で調べられるようにする

見つけた事実に対して、それから自分が何を考えたかも併せて記録しようながすことで、自分と難民とのかわり方を意識化できるようにする。

・ こんな暮らしをするなんて可哀そうだな。

・ 自分たちの食事はとても贅沢だな。

・ どうして難民を作るような戦争をするのかな。

・ 難民を助ける人はいないのかな。

・ 難民を援助しているのはどんな人たちのかな

・ 経験のある人の生の声を聞いてみたい

・ 自分たちにできることはないかな

6 本時の視点

教師の支援が、子供たちの多様な調べ方、考え方を引き出したり、自分の考え方を見つめ直したりするきっかけとなったか。